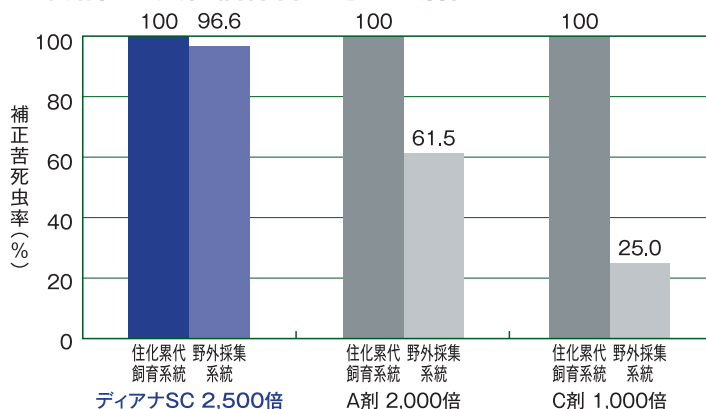




チャノコカクモンハマキ(基礎活性)

■薬剤低感受性個体群に対する活性



実施年: 2009年

試験場所: 住友化学

供試作物: 茶(品種: やぶきた)

供試虫: 住化累代飼育系統

野外採集系統

(静岡県島田市、2009年採集)

いずれも3齢幼虫

試験方法: 茶新梢浸漬試験

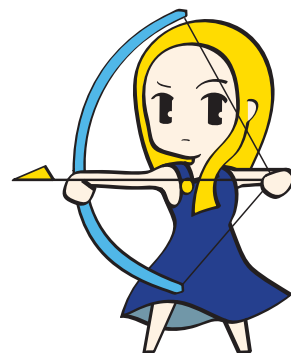
薬液に新梢を60秒間浸漬した後、

供試虫とともにカップに入れた。

(10頭/区、3反復)

調査: 処理4日後、苦死虫数を調査。

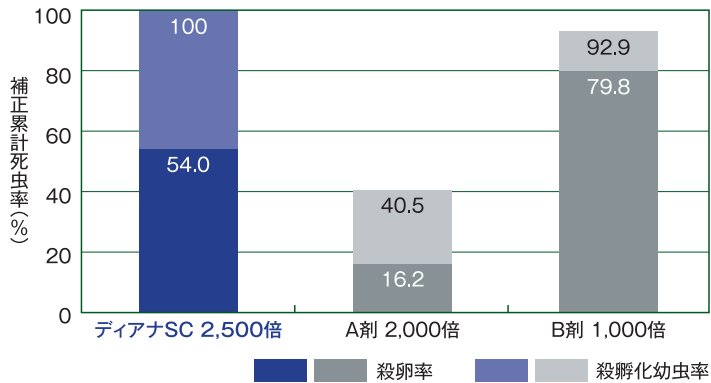
他剤に効きにくくなった個体群にも高い活性を示す。





チャノコカクモンハマキ(基礎活性)

■殺卵および殺孵化幼虫活性



実施年: 2010年

試験場所: 住友化学

供試虫ステージ: 卵 (野外採集系統)

試験方法: 卵浸漬試験

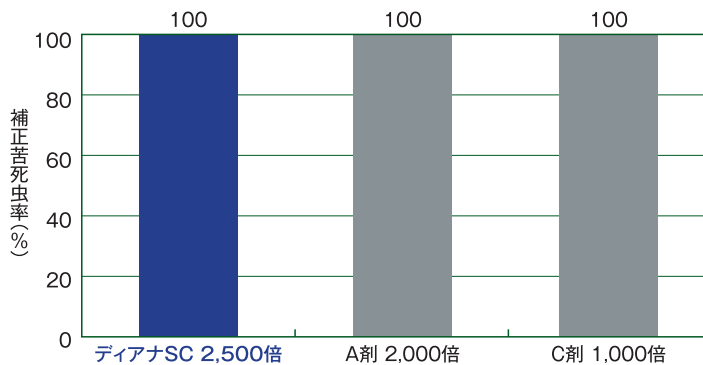
薬液に卵塊を10秒間浸漬した後、人工飼料を入れたポリカップに入れた。

(約100卵/区、6反復)

調査: 処理10日後、未孵化卵と生存幼虫数を調査し、殺卵率と死虫率を算出。

殺卵活性に加え孵化直後の幼虫にも殺虫活性を示すため、卵期処理で高い殺虫活性を示す。

■殺幼虫活性



実施年: 2009年

試験場所: 住友化学

供試作物: 茶 (品種: やぶきた)

供試虫ステージ: 3齢幼虫 (住化累代飼育系統)

試験方法: 茶新梢浸漬試験

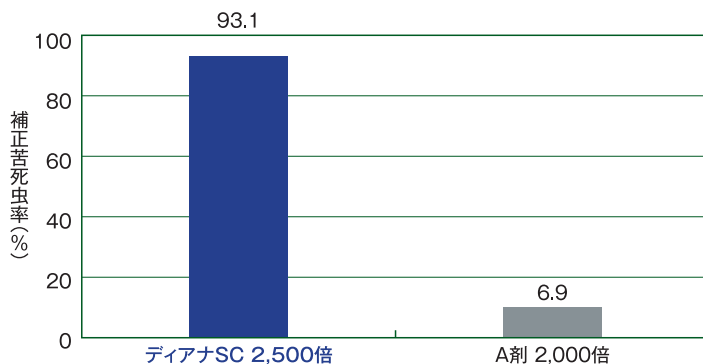
薬液に新梢を60秒間浸漬した後、供試虫とともにカップに入れた。

(10頭/区、3反復)

調査: 処理4日後、苦死虫数を調査。

幼虫に対して高い殺虫活性を示す。

■殺成虫活性



実施年: 2009年

試験場所: 住友化学

供試虫ステージ: 成虫 (未交尾)

(野外採集系統)

試験方法: 容器散布試験

薬液を容器の内側に散布し、直後に供試虫を入れた。

(10頭/区、3反復)

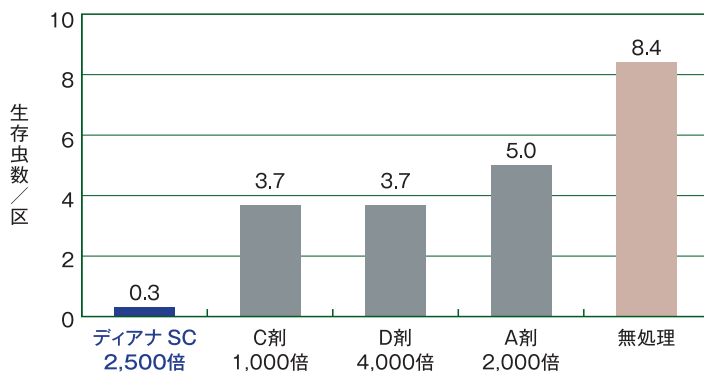
調査: 処理1日後、苦死虫数を調査。

成虫に対して高い殺虫活性を示す。



チャノコカクモンハマキ(圃場試験)

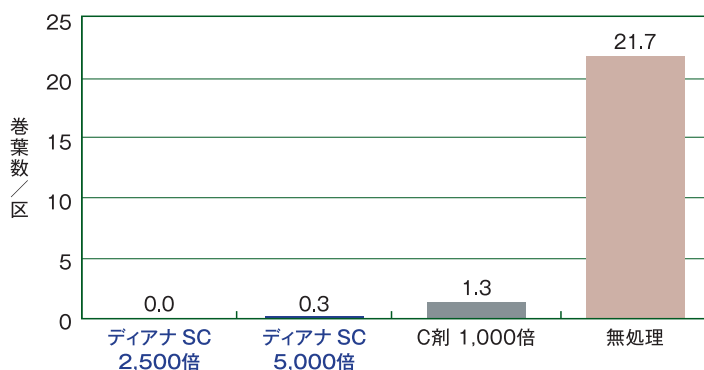
■防除効果①



実施年: 2009年
 試験場所: 住友化学(兵庫県)
 供試作物: 茶(品種: やぶきた)
 区制・面積: 3m/区、3反復
 散布日: 9月18日
 散布量: 270ℓ/10a
 調査日: 10月2日(散布14日後)
 調査方法: 各区内の生存虫数を調査。

対照薬剤に対して優れた効果であり、実用性は高い。

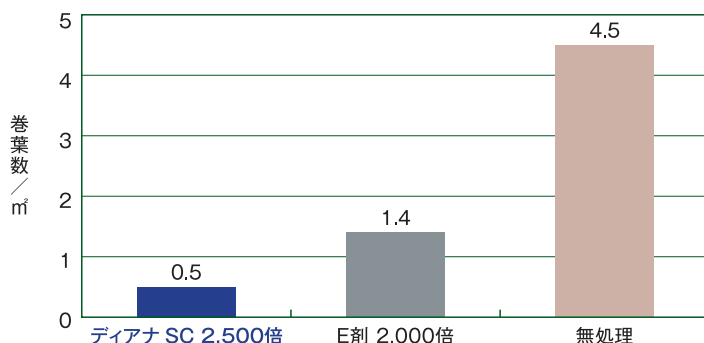
■防除効果②



実施年: 2007年
 試験場所: 熊本県農業研究センター茶業研究所
 供試作物: 茶(品種: やぶきた)
 発生状況: 少発生
 区制・面積: 9m/区、3反復
 散布日: 8月9日(発蛾最盛日6日後)
 散布量: 200ℓ/10a
 調査日: 8月24日(散布15日後)
 調査方法: 各区内の全巻葉数を調査。

対照薬剤に対してほぼ同等の効果であり、実用性は高い。

■防除効果③



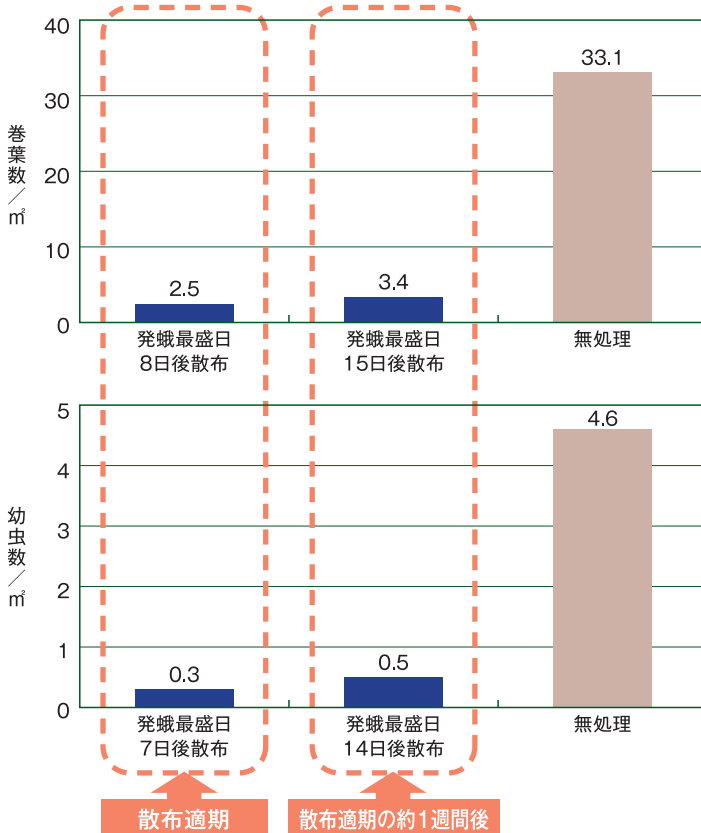
実施年: 2006年
 試験場所: 京都府農林水産技術センター茶業研究所
 供試作物: 茶(品種: やぶきた)
 発生状況: 少発生
 区制・面積: 5.4m/区、3反復
 散布日: 7月6日(発蛾最盛日7日後)
 散布量: 200ℓ/10a
 調査日: 7月28日(散布22日後)
 調査方法: 各区内の全巻葉数を調査。

対照薬剤に対して同等～優れた効果であり、実用性は高い。



チャノコカクモンハマキ(圃場試験)

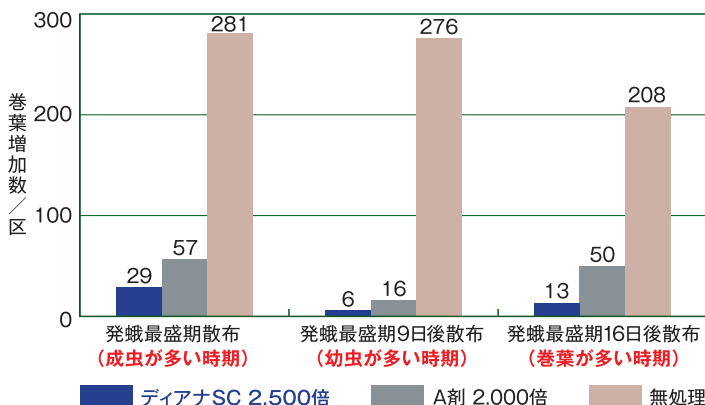
■散布時期別の防除効果①



実施年: 2010年
試験場所: 福岡県農業総合試験場八女分場
供試作物: 茶 (品種: めいりよく)
発生状況: 多発生
区制・面積: 7.2㎡/区、3反復
散布日: 8月2日 (発蛾最盛日8日後)
8月9日 (発蛾最盛日15日後)
散布量: 200ℓ/10a
希釈倍数: 5,000倍
調査日: 8月16日
調査方法: 各区内の全巻葉数を調査。

実施年: 2010年
試験場所: 鹿児島県農業開発総合センター茶業部
供試作物: 茶 (品種: やぶきた)
発生状況: 少発生
区制・面積: 10㎡/区、3反復
散布日: 8月6日 (発蛾最盛日7日後)
8月13日 (発蛾最盛日14日後)
散布量: 200ℓ/10a
希釈倍数: 5,000倍
調査日: 8月20日
調査方法: 各区内の生存幼虫数を調査。

■散布時期別の防除効果②



実施年: 2011年
試験場所: 住友化学加西農場
供試作物: 茶 (品種: やぶきた)
発蛾最盛期: 6月29日
区制・面積: 2.5㎡/区、3反復
散布日: 6月29日 (発蛾最盛期)
7月8日 (発蛾最盛期9日後)
7月15日 (発蛾最盛期16日後)
散布量: 300ℓ/10a
調査日: 7月22日 (発蛾最盛期23日後)
調査方法: 各区内の全巻葉数を調査。

降雨等の影響により適期に散布できなかった場合、およびダラダラ発生の場合にも高い効果が期待できる。